

ウクライナ危機と欧州

▽朝日新聞・国末憲人

ウクライナ危機の経緯

- 2013年11月 EUとの連合協定見送り
- 2014年2月 ヤヌコヴィッチ政権崩壊
- 2014年3月 ロシアのクリミア半島併合
- 2014年5月 ポロシェンコ大統領当選
- 2014年7月 マレーシア機撃墜事件
- 2014年11月 総選挙で親欧米派勝利

【1】クリミア半島の現在

- ▼通貨や旅券など「ロシア化」進む
- ▼世論＝併合賛成、併合反対、併合あきらめ
- ▼経済や生活は元々ウクライナ本土依存型
  - 水道 80%依存
  - 電気 80%依存
  - 電力 70%依存
  - ガス 65%依存
  - 予算 12億ドル中8億ドルが交付金
  - 観光客 65%がウクライナ本土から
- ▼ロシアとウクライナ、双方とも負担嫌がる？

【2】ウクライナの現在

- ▼革命から日常生活へ、キエフの「正常化」
- ▼ヤヌコヴィッチ時代はもはや過去
- ▼東部ドンバスは泥沼化

【3】欧州の対応

- ▼ウクライナ危機に対する欧州からのアプローチ
  - EU＝外交上の調停、対ロ制裁
  - NATO＝周辺国の防衛強化、ウクライナ治安支援
  - OSCE＝停戦監視、選挙監視
  - 欧州評議会＝立法支援、人権監視
  - 市民レベル＝民主化運動、NGOへの支援
  - 経済レベル＝牽制、撤退、逆利用
- ▼欧州内のせめぎ合い
  - 理念
    - 「ロシアの侵略は国際法秩序を損なう」
    - 「ロシアはウクライナから撤退すべきだ」
  - 現実
    - 「経済面で重要なのはウクライナよりロシア」
    - 「クリミアはウクライナに戻りそうにない」
- ▼ミストラル級強襲揚陸艦売却問題の例
  - 2006年 ミストラル艦就役

- 2008年 グルジア紛争
- 2009年 ロシアとの売却交渉が本格化
- 2011年 ロシアとの契約成立
- 2012年 ウラジオストク艦起工
- 2013年6月 セヴァストーポリ艦起工
- 2013年10月 ウラジオストク艦進水
- 2014年7月 ロシア人スタッフの操船研修開始
- 2014年7月 マレーシア機墜事件
- 2014年9月 仏政府、売却を凍結

▼欧州世論はウクライナに冷淡

【4】東方民主化支援の中のウクライナ危機

▼EUの東方拡大

- 1989年 ベルリンの壁崩壊
- 1991年 ソ連崩壊
- 2004年 EUの第1次東方拡大  
エストニア、ラトビア、リトアニア、ポーランド、チェコ  
スロバキア、スロベニア、ハンガリー、(キプロス、マルタ)
- 2007年 EUの第2次東方拡大 ルーマニア、ブルガリア
- 2013年 クロアチアがEU加盟

▼色の革命

- 2000年 ユーゴ(セルビア)・ブルドーザー革命、ミロシェヴィッチ政権崩壊
- 2003年 グルジア・バラ革命、シェワルナゼ政権崩壊
- 2004年 ウクライナ・オレンジ革命、ユーシェンコ親欧米政権発足
- 2005年 キルギス・チューリップ革命、アカエフ政権崩壊

▼欧州と旧東欧旧ソ連

- 1990年代  
西欧による旧東欧旧ソ連への民主化支援  
↓  
ロシアを含めた旧ソ連も西欧に国家再建を頼る
- 2000年代  
民主化ドミノによる「色の革命」  
↓  
ロシアの焦り、対抗策を練る

▼欧州評議会を拠点とした民主化戦略の再構築の可能性

【5】欧州右翼とウクライナ危機

▼欧州右翼とプーチン政権、その共通点

- 反EU、反米、反グローバル化を標榜
- 指導者に権力が集中する権威的政治制度
- 伝統的価値観の重視
- 戦略的分野への国家の介入
- 自由や人権の制限
- メディア統制
- 市場メカニズムに対する国益を強調

▼双方の思惑

- プーチン政権  
欧州議会内にシンパをつくり、政策をロシアに有利に導く。制裁への反対も

○欧州右翼

ロシアを、将来の統治モデルと位置づけ、助言や指導を受ける。資金援助も？

**【6】今後の課題**

- ロシアのクリミア、ドンバス戦略は破綻の兆候
- これらの地方での正常化戦略が欧州側に必要
- ウクライナのさらなる民主化推進を
- ロシアでの市民社会育成の可能性を探る
- 旧ソ連の正常化と民主化の全体像を描く必要
- クリミア帰属問題は長期的視野で打開を
- 欧州右翼の動向には警戒が必要